

## Bahujana hitaya bahujana sukhaya

すべての人々の安らぎと幸せのために

スバ・ランカ協会

春日井市石尾台4-2-20 0568-92-0955 [subalanka@tea.odn.ne.jp](mailto:subalanka@tea.odn.ne.jp)

---

スバ・ランカ通信 No.4 2007年12月22日

### 1. 報告

スズキ教材さん(高浜市)から寄付の品がよせられました。会員の水野寿夫さん(へきなん幼稚園理事長)が仲介して下さり、スズキ教材さんの倉庫に眠っていた紙芝居、幼児体操服、エプロン等を多数頂きました。副会長の佐々木さんに同行してもらい、取りに行きました。8月11日のことです。また、大鵬薬品の黒田尚様から、国語辞典を数冊いただきました。

体操服は大きなビニール袋に12個あり、エプロンは大きな段ボール箱2つあり、紙芝居は50冊ほどになりました。これらに、辞典が入った2つの箱を加えて、トライコ・ジャパンをとおしてスリランカに輸送しました。費用総額は、34,900円でした。9月末にはスリランカに届きました。辞典と紙芝居の一部はサバラガムワ大学に、体操服・エプロンと紙芝居の一部は、スバ・ランカ協会のスリランカ事務所を統括しているインドラナンダ和尚に送りました。インドラナンダさんは、1993年に愛知学院大学文学部宗教学科を卒業しており、私とは1988年頃からの付き合いです。彼は、スバ・ランカ協会のスリランカにおけるカウンターパート(協力団体)として、スバ・ランカ基金という団体を登録する準備をしています。今後、この基金を通して、よりスムーズに支援活動ができると考えています。

体操服は、キャーガッラ県のゴム農園の多い地方の幼稚園や小学校に届け予定です。ゆっくりとした時間の流れるスリランカですので、まだ予定のままですが、来年には配ることができるでしょう。実は、この配付する時の写真を待っていたのですが、残念ながら、年を越しますので、あきらめました。写真は来年の通信でおみせできると思います。この地方には、インド・タミル人が多いので、タミル人の子供達のもとに届くことになり、シンハラ人のお坊さんであるインドラナンダ師がこうしたタミル人支援をすることは、シンハラ・タミルの民族問題で悩んでいるスリランカ社会にとって大きな意義があると思っています。

### 2. 連絡とお願い

スリランカに20日間程行って来ました。お土産に、カシューナッツを10kg買って来ました。紅茶に加えて、今後、このカシューの普及にも努めて行きたいと思っています。スリランカのカシューの木は、500年前に、ポルトガルが海岸部を支配した時に、砂防林として植えたのが、始まりとされています。栽培目的ではありませんので、無農薬の自然のめぐみそのものです。あぶらで炒めて塩をかけて食べるのが一般的で、日本のコンビニでもこうして売られていますが、生のまま、電子レンジのレンジという項目で、2~3分操作し、一度取り出して、裏返して、もう一度2分ほどチンすると、うっすらと焦げ目がついて、あるいは、白色のまま乾燥します。80グラムでこの分数です。あっさりした味になります。あるいは、生のまま料理にも使えます。美味しいですよ。食後の感想をぜひお聞かせ下さい。では、皆さん、この1年ご協力ありがとうございました。よいお年をお迎え下さい。来年もよろしくお願ひ致します。 以上です。(文責:大岩碩)